

人ひと
吉よし
市し



(市 役 所)

一 概 況

県南部に位置する、人口三五、六一一（平成二二年国勢調査）、面積約二一〇平方キロメートルの市である。周囲は、東に球磨郡錦町及び相良村、西に球磨郡球磨村、北に球磨郡山江村があり、南は鹿児島県及び宮崎県に接している。

本市の中心は、人吉盆地の西南部にあつて急流で知られる球磨川に沿っており、その周辺に面積の約一割を占める比較的肥沃な耕地が開けている。南部には市面積の七割以上を占める広大な山林がある。

就業人口では、第三次産業（サービス業）が主で第二次・第一次産業の順となっている。農業は、稲を主としその他肉用牛、施設園芸、果樹類などが生産されている。また、林業も盛んで杉、檜を主とした木材の集散地として知られている。

本市には、球磨地方の官公庁が所在するほか、周辺町村が控えているので商業も盛んである。

交通機関は、JR肥薩線が市中心部を東西に横断し、管内に西人吉、大畑、矢岳の各駅があり、また人吉駅を起点にくま川鉄道が東に延び湯前町に通じて、その途中に相良藩願成寺駅がある。九州自動車道が市を縦貫し、東西に国道二一九号、南に国道二二一号、二六七号が走る。本市を起点にして定期バスが各方面へ運行されている。

本市は相良七〇〇年の城下町として発展し、人吉城跡は国指定史跡であり、また歴代城主が信仰篤く多くの神社仏閣を建造したので重要な文化財が数多く残っており、なかでも国宝に指定された青井阿蘇神社、相良神社、老神神社、願成寺が知られている。また、観光資源も豊富で人吉温泉、球磨川下り、クラフトパーク石野公園、矢岳高原などがあり、特異なものとして太鼓踊り、棒踊りなどの県指定無形文化財と国指定史跡大村古墳群などがある。

二 市名の由来

「人吉」の地名が現れたのは、平安時代中期で、醍醐天皇（八九八〜九二一年）の時代の「和名抄」に球磨郡に球玖・久米・人吉・東村・西村・千脱の六郷があると出ている。人吉の語源は、人吉が当時日向、薩摩、佐敷を結ぶ交通の要所で

あり、「舎」つまり、宿があり、これを「ひとよし」と読んでいたため、人吉と
なつたとする説がある。

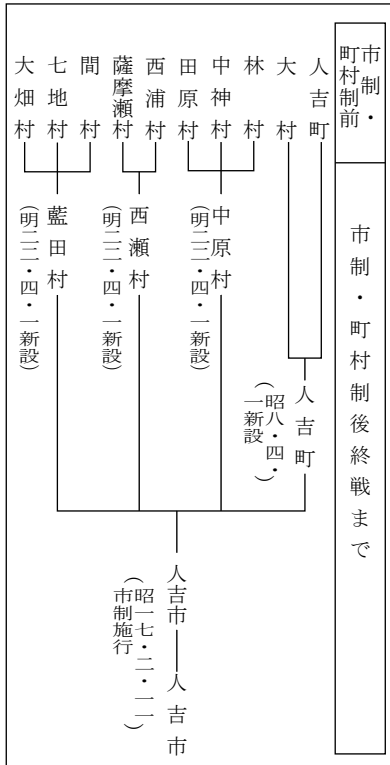
三 平成の合併検討経緯

本地域については、平成二二年三月の県市町村合併推進要綱において、人吉・
下球磨地域六市町村の合併パターンが示された。人吉市は、合併特例法期限内の
合併を推進する姿勢を示して周辺町村との合併検討に臨み、平成一四年末には県
のパターン通りの六市町村での任意協議会が設置されたが、このうち、人吉市・
相良村の一市一村だけが法定協議会への移行を決めた。

平成一五年四月から法定協議会での議論が始まったものの、間もなく相良村長
が人吉市との合併に反対する姿勢を打ち出し、同年夏にはこの合併協議は不調に
終わってしまった、その後は、人吉市と周辺町村との合併に向けた動きは顕在化し
なかつた。(第二編「人吉・球磨地域」参照)

四 昭和以前の合併検討経緯

1 市制・町村制施行前からの合併経緯と関係町村の沿革



人吉市は、相良七〇〇年の旧城下町で、球磨地方の経済、文化の中心であつ
た。明治四年(一八七二)七月の薩藩置県により人吉県に属したが、同年一月
に八代県に合併され、さらに六月一日、八代県は白川県に編入された。また同七
年の大小区制改正の時この地域は第一四大区第二、三、四、五小区に属し、旧人
吉町のうち球磨川北端の九日町、五日町、七日町、二日町、大工町、鍛冶屋町、
紺屋町等は第三小区に、球磨川南の新町、南町、麓町、老神町等は第四小区に、
大村は第三小区に、中原村は第二小区に、西瀬村は第三及び第四小区に、そして
藍田村は大部分第四小区になった。

同一二年の郡区町村編制法の施行により、第三、四小区の球磨川西岸市街地区
をあわせて人吉町が誕生し、人吉、大煙はそれぞれ一町村で間と七地、西浦と薩
摩瀬はそれぞれ二か村で、中神、原田、林は三か村で一行政区域となった。二二
年、市制町村制の施行に伴い、林、中神、原の三か村が合併して中原村に、西浦
と薩摩瀬が合併して西瀬村に、そして間、七地、大煙の三か村が合併して藍田村
となった。その後、明治四一年、国鉄肥薩線の開通以来、急速に町勢は発展をと
げ、昭和八年(一九三三)四月には多年の懸案であつた隣村大村との合併もな
り、新しい人吉町が設置された。太平洋戦争中、国内体制強化の一環として本県
でも八代市、荒尾市の市制施行が行なわれ、人吉町、藍田村、西瀬村、中原村の
四か町村でも合併の必要に迫られ、昭和一七年二月一日の紀元節に合併して、
県下三番目の市制を施行した。

2 町村合併促進法制定後の経緯

町村合併促進法制定後の県の試案では、特に他町村の本市への編入は予定して
おらず、また本市においても特に合併に対する動きはなかつたが、隣接村の意向
を打診するため、昭和二九年(一九五四)八月三〇日、人吉市役所において西
村、川村および山江村の代表をまじえた人吉市議会の全員協議会が開かれ、山江
村から本市と合併したい旨の意向が表明された。また、これと前後して、西村の
一部には、人吉市合併研究会が結成されるなど本市への合併の動きがあつたが、
いずれも具体的な合併の動きにまでは発展せず、結局、本市に関しては合併、境
界変更等は行なわれなかつた。